

《報告》

科学的見地から-政策のために：ドイツがん研究センター、ハイデルベルグ 有害なタバコ製品スヌース 無煙タバコは非常に有害なタバコ製品である

Dr. Katrin Schaller、Dr. Urmila Nair、Dipl. Biol. Sarah Kahnert、Dr. Martina Pötschke-Langer
(翻訳：北田雅子¹、翻訳協力：松崎道幸²、監修：望月友美子³)

¹ 札幌学院大学経営学部、² 深川市立病院

³ 国立がん研究センターがん対策情報センターたばこ政策研究部・「喫煙と健康」WHO指定研究協力センター

Background～背景～

欧州連合ではタバコ製品は、タバコ製品の製造、プレゼンテーション、および販売に関する加盟国の規則、行政管理および法律の擦り合せに関する指令(2001/37/EC)によって規制される。指令2001/37/ECの重要な狙いは市民の健康を守り促進することである。健康保護に関していうと、その指令はとりわけ口腔使用のタバコ製品の市場への参入を禁止している。これはスヌースにも適用される。欧州議会と欧州委員会により列挙されたDirective 2001/37/EC改正のための具体策に関しては、ドイツがん研究センターは全ての加盟国に、タバコの健康被害からの若者と消費者の保護を保証するために、強制力のある法律の採択を緊急に提言している。こうした法的措置により、スウェーデン製のスヌースをはじめとした無煙タバコ製品の市場参入は、引き続き禁止されるだろう。なぜなら、これらの無煙タバコ製品は健康に有害であるからである。

Snus is harmful to health

～スヌースは身体へ有害である～

スヌースは口腔使用のタバコ製品で、唇と歯肉

の間に挟むように置くガムのような製品である。細かく粉碎されたタバコをベースに様々な香りや塩、水、湿潤剤そして、pHを調節する化学物質が含まれている。スヌースには loose type (散剤タイプ：写真左) と portion type (パックタイプ：写真右) があり、どちらも様々な香りや味の銘柄がある。



2010年クリスマスバージョン
(Photograph by Susanne Shunk)

連絡先

Dr. Martina Pötschke-Langer
がん予防担当部門およびタバコ規制に関する
WHO協力センター
German Cancer Research Center Unit Cancer
Prevention and WHO Collaborating Centre for
Tobacco Control
Im Neuenheimer Feld 280
69120 Heidelberg
FAX: +49 (0) 6221 42 30 20
e-mail: who-cc@dkfz.de
受付日2011年4月10日 採用日2011年6月23日

Smokeless tobacco products contain nicotine and cause addiction

～無煙タバコはニコチンを含んでおり 依存の原因となる～

スヌースも他の無煙タバコも依存症の原因となるニコチンを含んでいる。結局のところ無煙タバコとスヌースは、シガレットと同量のニコチンを

体に送り込む。スヌース使用者は、一日を通して平均的にみるとシガレット使用者と同等かそれ以上のニコチンを摂取している。そして、無煙タバコ使用者には喫煙者と同様に依存症が引き起こされる。スヌースを使う若者は、シガレットを上回るほどではないが喫煙者と同様のニコチン依存症となり、ニコチン離脱症状も同程度である。したがってこの口腔タバコはやめるのが難しい。

Smokeless tobacco products contain carcinogens and toxic substances

～無煙タバコには、発ガン性物質と有害物質が含まれている～

無煙タバコにはおよそ28種類の発ガン物質が含まれている。主なもので最も多く含まれる発ガン物質は、非常に発ガン性の高いタバコ特有N-ニトロソアミンで、この物質は製品の種類によって含まれる濃度は異なる。さらに無煙タバコには、揮発性のN-ニトロソアミン、ホルムアルデヒド、ベンゾピレン、鉛、ポロニウム-210、ウラニウム-235と238そして他にも発ガン物質が含まれている。ニコチンは神経毒性を持っており、吐き気などの中毒症状を引き起こし、呼吸器の機能を損ない、結果的には死に至る呼吸停止をもたらす。体

重1kgあたり0.8から1.0mgのニコチン摂取量が致死量であると考えられる。子供ではわずか1mgのニコチンが中毒症状を引き起こす。

Smokeless tobacco products cause serious diseases that may be lethal

～無煙タバコは命取りとなりかねない深刻な病気の原因となる～

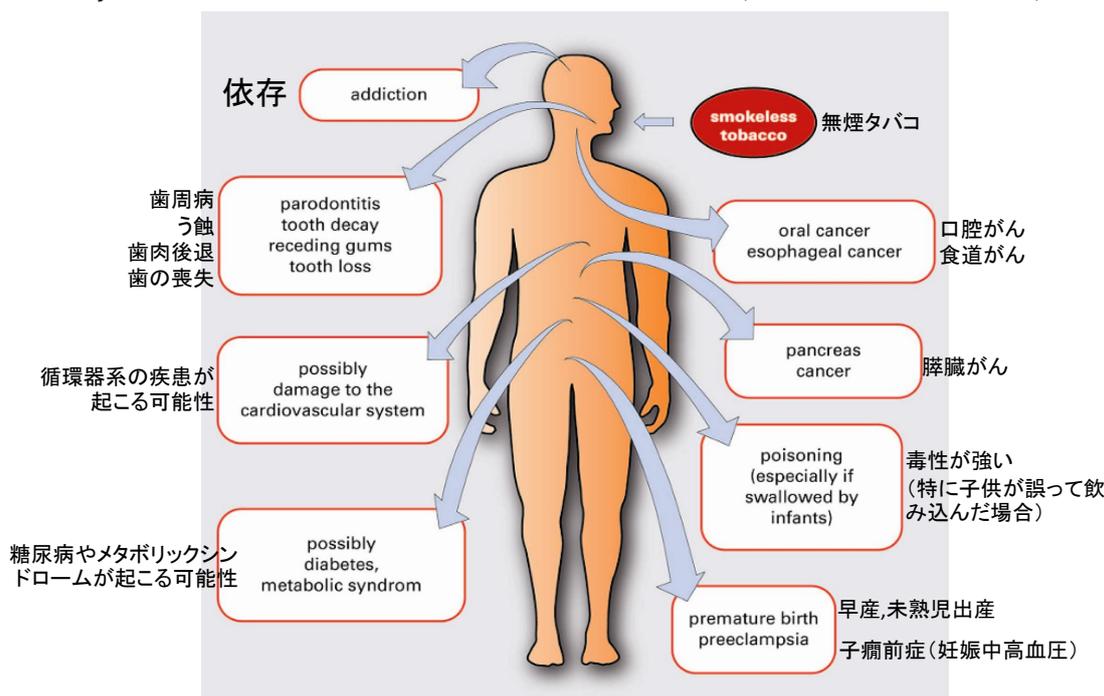
無煙タバコに含まれている発ガン物質は、膀胱がん、口腔がん、そして食道がんの原因となる。無煙タバコはスヌースも含めて、歯周病、う蝕、歯の喪失、歯肉退縮、早産、そして妊娠中毒症(妊娠に関連した高血圧)を引き起こす。無煙タバコの消費量が増えると循環器系の疾患、糖尿病やメタボリック・シンドロームが増える可能性がある、とする研究成果も発表されている(図1)。

There is no reason to introduce smokeless tobacco products on the European market

～無煙タバコをヨーロッパの市場に提供する理由はない～

無煙タバコはヨーロッパの人々の健康に利益をもたらすことはなく(図2)、長期的にはタバコ消費を増加させることになる。

図1 Health damage caused by the consumption of smokeless tobacco. 無煙タバコの健康への被害
Source: Ashley 20084. Illustration: German Cancer Research Center, Unit Cancer Prevention, 2010.



Smokeless tobacco products are attractive to young people

～無煙タバコは若者を惹きつける力がある～

無煙タバコは低濃度のニコチンと刺激的な香りを含んでおり、若者が最初に用いるタバコ製品として使われる可能性がある。アメリカやスウェーデンでは最近、無煙タバコ製品の消費量が明らかに増加しており、特に若い男性で使われている。若い男性では、無煙タバコとシガレットの両方を使うことがよく見られる。

Smokeless tobacco products will increase the total tobacco consumption in the long term

～無煙タバコ製品は長期的には全てのタバコ製品の消費を増加させる～

タバコ会社は、無煙タバコを喫煙が許可されていない場所における喫煙の代用品として推奨している。世界的に、屋内の完全禁煙化政策が増加している観点からみると、タバコ会社が無煙タバコをシガレットの代用品として推奨する動きは、さらに喫煙者による無煙タバコの消費を促進し、結果的にはタバコ消費を減らそうとする政治的な努力を阻害することになる。

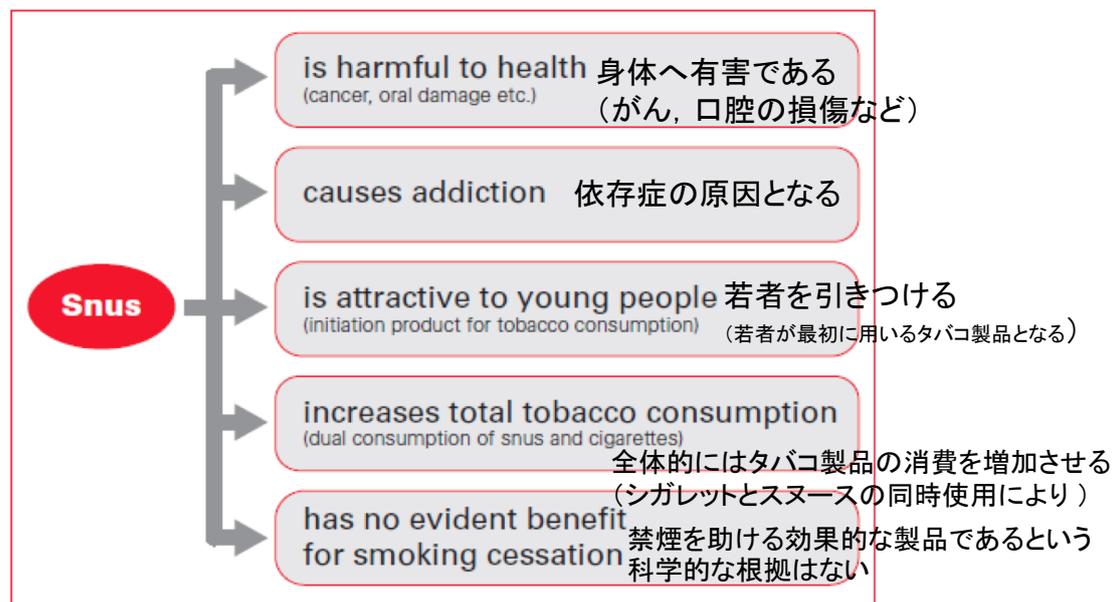
Smokeless tobacco products are not effective for smoking cessation

～無煙タバコは喫煙をやめるための効果的な製品ではない～

今のところ、無煙タバコが禁煙を助ける効果的な製品であるという科学的な根拠はない。ゆえに、無煙タバコを禁煙する際の補助剤として推奨することは、この製品が安全であるかのような誤解を生じることになる。健康へのリスクは、他の種類のタバコへ使用を切り替えることよりも、タバコ製品の消費そのものをやめることで減少させることが可能である。スウェーデンの経験では、スヌースはタバコをやめるために使う人より、紙巻タバコ(シガレット)からスヌースに切り替えた人が使っている。およそ前喫煙者の4分の1はスヌース使用に移行していた。しかし、多くの喫煙者(66%)は、スヌースを経由することなく禁煙に成功している。さらに、女性の間ではスヌースを使用する割合は低く、彼女らのほとんどはスヌースを用いなくても禁煙に成功している。スウェーデンでは男性の間でのタバコ製品の消費量が高い。40%の男性はタバコ製品を用いている。喫煙者の割合は低いが、スヌースを利用する割合は明らかに増加している。しかし、喫煙者の割合が減少している主な要因は非喫煙者の激増によるものである。

図2 Disadvantages of Snus. スヌースの不利益

Illustration: German Cancer Research Center, Unit Cancer Prevention, 2010.



The number of smokers has declined in many countries without use of any smokeless tobacco products

～無煙タバコを使用していない多くの国では、喫煙者の数は減少している～

近年、タバコ規制が目覚ましく推進したおかげで無煙タバコ製品の販売を禁止している多くの国々では喫煙率が低下している。例えば、ドイツ、イギリス、オランダ、イタリアそしてフィンランドでは2006年から2009年の期間、喫煙者の割合は5%減少した。しかし、スウェーデンを見ると同じ期間の喫煙者の割合の低下幅は少ない(図3)。

奥付

2010年ドイツがん研究センター、ハイデルベルグ
著者: Dr. Katrin Schaller, Dr. Urmila Nair,

Dipl. Biol. Sarah Kahnert

文責: Dr. Martina Pötschke-Langer

がん予防担当部門およびタバコ規制に関するWHO協力センター

Im Neuenheimer Feld 280 69120 Heidelberg

Fax: 06221-423020、E-Mail: who-cc@dkfz.de

引用: ドイツがん研究センター(発行)、

「スヌース、有害なタバコ製品」

(ハイデルベルグ2010年) 本出版物および証拠文献はインターネットにて次のアドレスから呼び出すことができる: <http://www.dkfz.de/de/tabakkontrolle/>

[Aus_der_Wissenschaft_fuer_die_Politik.html](#)

追記

以下の山岡雅顕先生のサイトにもJTのゼロスタイルミントも含め、無煙タバコについての危険性を注意喚起する情報が豊富にあるので併せてご覧頂きたい。

http://nosmoke.web.infoseek.co.jp/nosmoke_world.htm

<http://nosmoke.web.infoseek.co.jp/zsm/index.shtml>

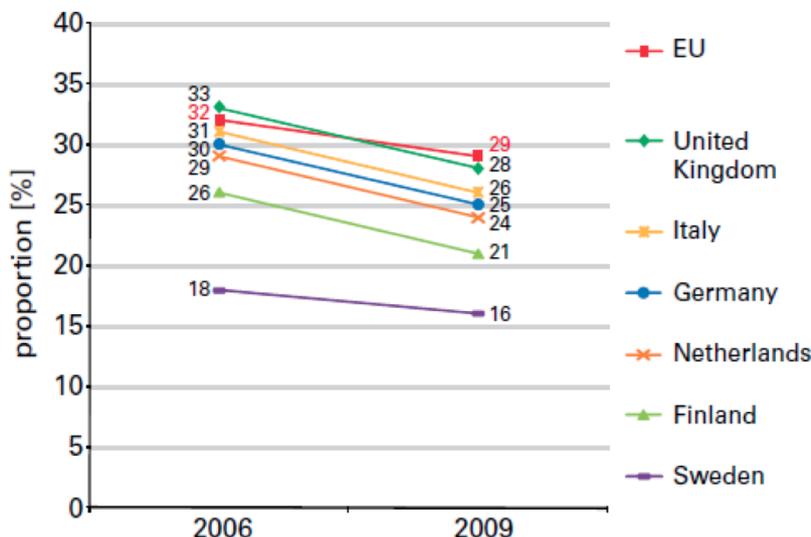
終わりに

～無煙タバコをめぐる議論とEUの動向、そして日本の喫煙対策のために～

欧州連合27カ国(以下EU)では、スウェーデンをのぞき無煙タバコは「スヌース」も含めてその販売が禁止されている。この取り決めは、欧州連合指令2001/37/ECで定められている。2010年5月現在において、この欧州連合にスイス、ノルウェーそしてアイスランドは加盟していない¹。ここでいう「無煙タバコ」とは主に「Snus」という口腔タバコを指す。スウェーデンは、歴史的に長期にわたり特に男性の間で、このスヌースが広く使用されていたこともあり、EU加盟国であるがその禁止を免れている²。昨今、スヌースについてはharm reduction(ハームリダクション: 有害性低

図3 Proportion of smokers in selected countries of the EU. ヨーロッパ連合内数か国の喫煙率

Source: TNS Opinion & Social, 2010 (Eurobarometer). Illustration: German Cancer Research Center, Unit Cancer Prevention, 2010.



減のために代替物を提供する戦略)を巡って新たな議論が再燃している。2010年11月にウルグアイで行われたCOP4の前にも「スヌースを他の無煙タバコと同等に考えることは不適切で、スヌースは他の噛みタバコと比較してもニコチン濃度が低く、発ガン物質の含有量も低く、低害でありタバコをやめることが難しい喫煙者の禁煙を手助けする製品としても有効である」と述べている研究者もいる³。

私は、2010年10月よりドイツがん研究センターでマルティナ医師率いる部署に留学している。私が研究室へ通うようになって間もなく、チームはこの無煙タバコ「スヌース」についてのファクトシートを完成させた。そして、日本から来たばかりの私にスタッフは、タバコ会社が無煙タバコ製品を市場に広く流通させるために強烈に活動しているだけでなく、ハームリダクションの観点からスヌース利用を容認する研究者もおり、ドイツがんセンターは「スヌースを含めた無煙タバコのEUへの市場参入を、引き続き阻止することが重要である」というメッセージを早急に出す必要があるのだと説明した。さらに、EU内においてスヌースを含めた口腔使用のタバコ製品は、インターネットを通じて購入することが可能であり、若者が容易に入手可能であることが大きな問題となっているということだった。この説明を聞いた後、早速調べると日本においてもインターネットのサイトを通じ、スヌースを含めた多くの無煙タバコが購入可能であり、このスヌースを害の少ないタバコとして紹介しているサイトも多々見受けられた。

これまで日本においては、無煙タバコへのニーズが少なく2004年に試験的にスウェーデンから輸入が許可された「ファイアーブレイク」も厚生労働省による使用上の懸念が示された後⁴、2009年には店舗販売が停止された。しかし、路上喫煙禁止条例などの喫煙規制が各地で進み、2010年10月にはタバコの値段が引き上げられたことにより、電子たばこ(E-Cigarette)と並び日本でも無煙タバコのニーズが静かに裾野を広げている。さらに、JTが2010年5月17日から都内限定で販売を開始し、神奈川県などにも販路を拡大している「ゼロスタイルミント」も、新しいタイプの無煙タバコ(吸引型のタバコ)であり、航空会社や飲食店の対応

の混乱、さらに神奈川県受動喫煙防止条例での適応除外など、禁煙環境に大きなノイズを引き起こしているといえよう(2011年3月時点、ゼロスタイルミントは札幌市内でも購入可能)。

また日本では、今回紹介したスウェーデン製のスヌースも含め無煙タバコに関する実証研究がなく、調査も行われていないことから、日本国内でどれくらいの人を使用しているのか、その現状が不明である。しかし上記に述べたように、禁煙環境が形成推進されていく過程において、今後さまざまなタイプの無煙タバコが市場に出回る可能性は極めて高い。さらに、パッケージが非常にお菓子と酷似しており、親が購入した無煙タバコを未成年が使用することも懸念される。喫煙対策や禁煙支援に関わる多くの専門家は、この無煙タバコの日本市場への動向を注視するとともに、健康へ与える影響について十分な情報を持つことが必要であると考え。そして、「禁煙の補助剤として有効である」とか「無煙だからシガレットよりも身体へ与える害が少ない」などという誤った認識が日本社会に浸透し定着するのを防ぐ必要があると強く感じている。

今回紹介したファクトシートでは、無煙タバコがシガレットと同様に身体へ有害であり、特にアメリカやスウェーデンでは若者を中心に利用者が増えていること、喫煙者の多くはシガレットと無煙タバコの両方を用いていること、前喫煙者の多くはスヌースを経由しなくても禁煙に成功していること、そして、タバコ製品そのものの消費を減らすことが、喫煙率の低下に有効であり、喫煙対策上で効果があることを述べている。この資料が少しでも日本における禁煙指導や喫煙対策の一助になると幸いである(文責:北田雅子)。

¹ http://europa.eu/about-eu/countries/index_en.htm (30, Oct, 2010)

² <http://www.nosmoke55.jp/data/0709snus.pdf> (25, Oct, 2010)

³ <http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/j.1360-0443.2010.03250.x/pdf> (10, Dec, 2010)

⁴ <http://www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/jouhou/index.htm> (15, Dec, 2010)